

CHIBA

東日本ユニオン千葉地方本部

発行者:末永 健

編集者:情 宣 部

何があっても「命を奪う」ことは絶対に許されない!!

感電事故に関する緊急申し入れを

提出!!(6月20日付)

これが「究極の安全」なのか!

2023年6月16日(金)1時42分頃、内房線 上総湊～竹岡間において高圧線引下線の取替作業中に協力会社作業員(28歳)が感電死傷する痛ましい事故が発生しました。

私たちJR東日本ユニオンは結成以降、すべてのJR労働者の死亡事故・重大労災事故ゼロを達成するために職場から安全に対する問題点や危険要因を洗い出しながら日夜奮闘してきました。にも関わらず、このような感電事故を起こしてしまったことに深い悲しみと、仲間の命を守ることができなかった悔しさ・責任を強く感じます。そして「究極の安全」という言葉がいかにか形骸化しているのではないかと、ということも追及していかなければなりません!

失われた生命は戻ってはこない!二度と同じような事故を起こさないために原因究明と再発防止に向けて労使で真摯に議論し、安全で安心して働ける職場・環境をつくるため「緊急申し入れ」を会社に提出しました!

度重なる「あわや死傷事故」も!!

●2022年11月25日、京葉線・京葉車両センター構内において、梯子作業の電車線設備・個別検査中に協力会社作業員が断路器検査の際に加圧されている箇所につれ、感電受傷する事象が発生。幸いにも命に別状はありませんでしたが、監督者・監督員であるJR社員が「作業範囲内に加圧されている断路器があることを知らなかった」「作業箇所全てが停電区内であると思った」など、職場に根付く安全意識・設備に関する理解、そして技術継承や人材育成についてなど、さまざまな問題が浮き彫りとなりました。

●2023年1月28日、外房線・浪花～御宿間において凍結防止の臨時列車が、き電停止区間に進入する事象も発生。夜間作業中止のため、その区間に作業員等はいませんでした。あわや死傷事故になりかねない事象でした。

この事象についても緊急申し入れを提出し、団体交渉で「二度とこのような事象を発生させない」ことを確認してきた矢先の今回の感電事故は到底、受け入れることができません!

**仲間の命・自分の命を守るため、私たちと共に考え
共に声をあげて行こう!共に立ち上がろう!**